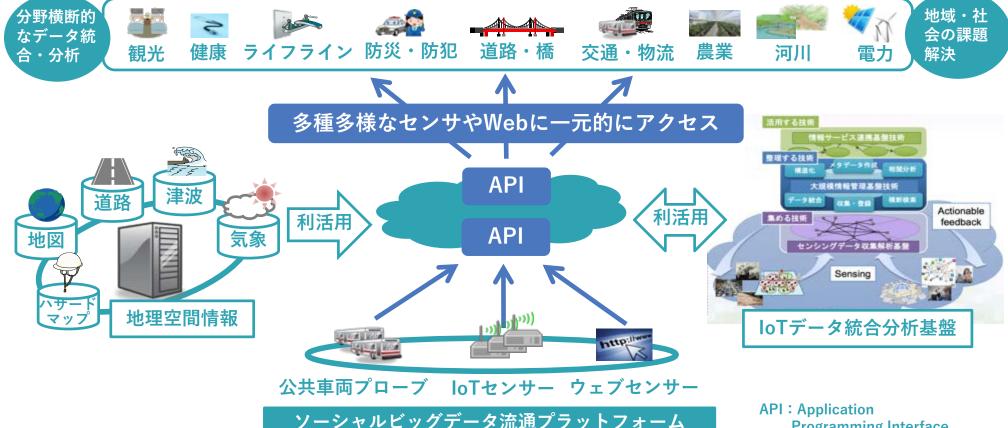
異分野データ連携プロジェクト平成29年度活動報告

研究開発・社会実証プロジェクト部会 異分野データ連携プロジェクト

異分野データ連携プロジェクトの概要

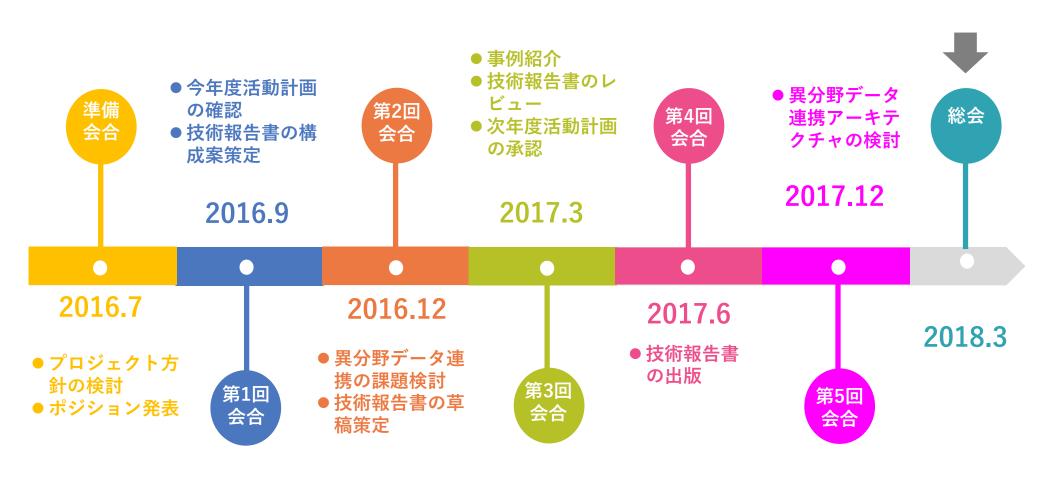
センサデータをはじめ、国・地方自治体のオープンデータや公開されているG空間 データが様々な分野に利活用されるためのデータ流通・統合における課題の検討

異分野データ連携の在り方について、基盤技術・社会実装の両面から 課題を整理・体系化し、技術報告書の公開等を通じた提言を行う



Programming Interface

これまでの活動

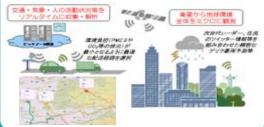




産学官から25機関37名の構成員(2017年5月時点)

異分野データ連携技術報告書

実空間データの分野横断的利活用に よる環境問題対策支援 (NICT)



地域に密着したデータ利活用の実践(エリアポータル)



G空間情報アーカイブ (東大CSIS)



ケーススタディ

異分野データ連携の 課題と提言

- ①データの横断的 利活用に関する 課題
- ●実世界イベントのデータ 形式やスキーマの共通化
- ●データの安心・安全な利 活用技術の向上
- ●スケーラビリティの向上
- ② loT社会に向け たデータ連携基 <u>盤構築の</u>課題
- ●社会システムとの統融合
- ●データ流通から価値流通 へのシフト
- ③課題解決指向なデータ利活用に向けて
- ●データ駆動型の課題解決
- ●データ利活用を介した協 働の促進

スマートシティを実現するソーシャル・ビッグデータ利活用・還流基盤(慶應大学SFC)





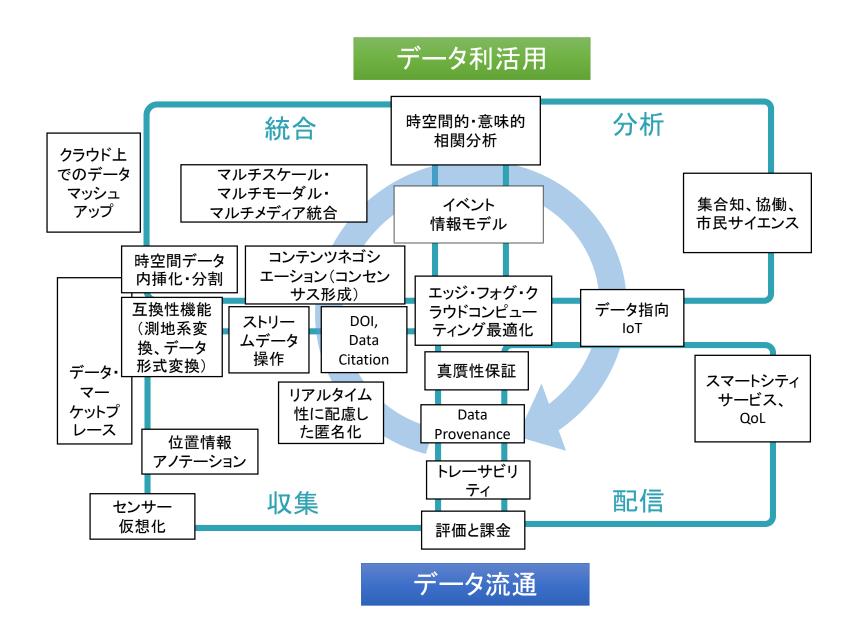
大規模ドライブレコーダデータによる運転者指向サービス(東大生研)





電子出版(2017年6月)
<u>アマゾンKindle、楽天kobo</u>、honto、iBookstore、BookWalker、大学生協、コンテン堂

異分野データ連携サイクルに沿った技術マッピング



ユースケースに応じた技術的要件

- オープン・スマートシティを実現するソーシャル・ビッグ データ利活用・還流基盤(慶応大学)
 - Open (データソース) to Open (利活用)間のデータ流
 通:①メタデータ、②セキュリティ、③検索・発見・同定、
 ④大規模分散時刻同期、⑤実時間配送
 - 異空間・異種情報を共有する意義:どのレベルで共有するか?(センシングデータ~情報~知識)、メタデータ+一般性、転用受容性
- 現場の知、市民を有機的に組み込んだ次世 代型市民協働プラットフォーム(東京大学)
 - 市民協働型プラットフォーム:市民と行政 によるデータ収集、共有、活用
 - 街の課題のデータとプロセスをオープン化、レポートの標準(Open311)
 - AIによる知の抽出・共有支援
 - 多様なデータ融合による災害時のモビリティ 支援(東北大学)
 - リアルタイムな異分野データ融合
 - スパースデータの補完:理論+AI学習
 - 過去事例の学習によるアラート予測(気象 × 交通障害)
 - 交通データオープン化、メタデータ標準化

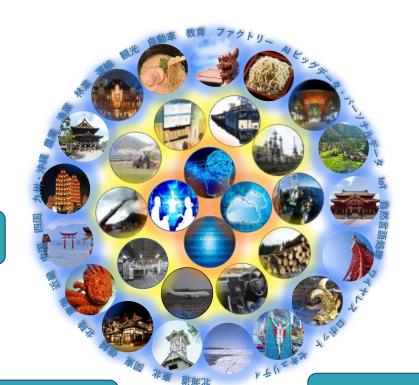
- モバイルセンシングを活用したスマートシ ティアプリケーション NII
 - 情報提供を通じた人々の行動変容
 - イベントの抽出と提供(生データではなく)、匿名加工されたトラジェクトリの提供
 - 利活用ニーズと利用可能データのコー ディネーション
- 交通ビッグデータに基づく運転者指向サービス基盤(東京大学)
 - 複数時空間データ統合可視化、異分野イベント統合、イベント相関・CEP
 - 場所×時間による統合→特徴量の落とし 込みが課題
 - 時間×場所×対象による複数データ比較

異分野データ連携によるスマートIoT推進の課題と提言に向けて

- 分野横断の共通プラットフォームの構築
- 異分野間データ連携による新ビジネスの創出
- 実証実験等における成功モデルの横展開

基盤技術

セキュリティ



社会制度

地域との連携

持続可能性

スマートシティ